

		50	100%
仮説検証	5	■	
授業まとめ	0		
研究まとめ	3	■	
反省・評価	2	■	

<考察>

- ① 各個人によって困っていることはさまざまである。全体的に見ると、具体的なことからより教育研究の方法がよく理解されていないために出てくる問題と考えられる。
- (3) 研究課題解決のための方策を考えるようにするためのはたらきかけ

① 例1 教師に対し事前に通知する

学年・低・中・高学年部会開催については、各主任の方から開催期日、時間、場所等について知らせるわけであるが、具体的な内容につれてふれることは少ない。研究内容や進め方について資料を提供することは大切であると考え、次のように通知を配布する。

合 科 的 な 指 導 部 会		部 会 名	1 学 年 部 会
月 日	8月25日(火)	時 間	14時30分
		場 所	1の1
1. 会のねらい ① 第2学期の研究計画検討 2. 研究内容・進め方 ④ 第2学期の授業研究について ○ 授業者の決定 ○ 授業単元の検討(合科する教科、単元) ○ 授業仮説の検討 ○ 仮説の具体化についての話し合い ⑤ 授業までの日程 ○ 8月25日(火) 授業者の決定 ○ 9月1日(火) 授業の教科、領域等の検討 ○ 9月8日(火) 授業仮説の検討と具体化について ○ 9月22日(火) 授業研究の日程作成 ④ 次回の準備 ○ 授業単元を各自で決めてくる。 ● 決めた理由 ● 授業仮説を用意する。 ● 指導計画(概要)			

<考察>

- 調査・1の結果では、具体的に進めるには学年部会がよいということなので、通知の方も調査結果にそうように具体的にしたつもりであったが、教師の反応はもう少し具体的なことを入れてほしいという要望であった。
- ② 例2 共同研究についての相談日の新設

現在ある共同研究の組織を生かし、活性化をはかる意味からも、本校の共同研究の機関紙を利用することにした。

昭和62年度

後 数 だ よ り

拓く NO. 5

昭和62年8月26日

岡山県 津和野小学校
研究推進委員会

2学期スタート

- 授業充実に迎えたが、いろいろな行事が重なります。行事に押し流されないように、お互に健康に留意しながら、日々の授業実践に努力したいと思います。
- 共同研究についての相談日開設いたしました。理当は、教頭先生です、ご利用ください。

各部の研究計画による実践を

<考察>

- 相談日を設けたことについて調査したところ、気軽な聞けるようになったと答えた教師が60%と多く、普段聞くということを当り前のこととして考えていたことが、教師側からは抵抗のあることであることを教えられた。特に若い教師には、相談日を設けたことが研究課題に取り組むための励みにもなり、研究を深めることにもつながることがわかった。

- (4) 各自の研究成果を準備し会に参加するようになるためのはたらきかけ

① 例1 各部会の出席

どのような会でも出席させてくれるようはたらきかけてきた結果、11月20日までに下記のように会に出席することができた。

会 の 名 称	出席回数
低 学 年 部 会	1
中 学 年 部 会	1
高 学 年 部 会	1
合 科 的 な 指 導 部 会	2
算 数 部 会	2
全 体 会	2
1 学 年 部 会	1
2 学 年 部 会	2
3 学 年 部 会	2
4 学 年 部 会	3